



所蔵図書紹介

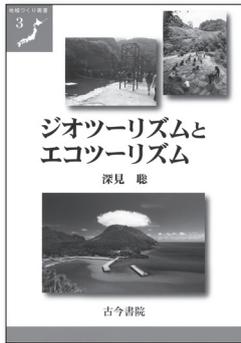
「若者の海外旅行離れ」現象に関連する若者論の多くが世代論のような社会学をベースとする考察であるのに対し、本書『若者の海外旅行離れ』を読み解く―観光行動論からのアプローチ―(中村哲・西村幸子・高井典子著、法律文化社)は、観光する人びとの意思決定プロセスや行動そのものを観察し、その仕組みや意味を明らかにする「観光行動論」から解明しようと試みている。同時に、従来の観光行動研究に抜け落ちていた「なぜ旅行しないのか」「旅行しないとはどういうことなのか」を問題として捉え、「若者の海外旅行離れ」という特定の現象の解明にとどまらず、観光行動論の理論構築をも視野に入れたものとなっている。最終章で分析に基づいた問題解決への打開策を提案すること、より実践的な研究発表となっている。



A5判 260ページ
定価 2,500円
法律文化社 (2014年発行)

「池に小石を投げ込んで水面に波紋を描くような研究にしたい」という研究者たちの思いが積み重ねられた研究図書である。(大隅)

エコツーリズムというと、固有の自然風景を観て感動する、動植物に出合い感動して観察する、などの観光を連想するのではないか。ジオツーリズムとは、生態系の維持を支える土台であるジオを地学的・地理的な側面から、生態学的な側面から人間生活との関係性における観光・旅行を考察することである。本書『ジオツーリズムとエコツーリズム』(深見聡著、古今書院)では、観光対象であるジオサイトを観光資本としてツアーとして企画して来訪者に提供するのとは地域の住民が主体であると主張する。観光研究者にはジオサイトの定義に立脚して観光研究の見地から特徴ある観光形態に発展させる責務があるという。エコツアーで多くの人が域外から来訪するのは地域活性化にはプラスになるものの、住民の快適な暮らしとどうバランスを取るべきかを事例調査の分析からひもといている。ジオツーリズム、エコツーリズムは異なるが、「自然」と「人間生活」の持続が大前提であるという筆者の考えを共有したい。(片桐)



A5判 206ページ
定価 2,800円
古今書院 (2014年発行)

エコツアーで多くの人が域外から来訪するのは地域活性化にはプラスになるものの、住民の快適な暮らしとどうバランスを取るべきかを事例調査の分析からひもといている。ジオツーリズム、エコツーリズムは異なるが、「自然」と「人間生活」の持続が大前提であるという筆者の考えを共有したい。(片桐)

図書館からのお知らせ

移転・リニューアル開館に向けて(一時閉館のお知らせ)

「旅の図書館」は、1978年(昭和53年)の開館以来、一般の方から観光の研究者・実務者まで幅広い皆様にご利用いただいてまいりました。このたび、移転準備のため、本年9月30日(水)をもちまして一時閉館させていただくこととなりました。2016年(平成28年)夏頃、観光研究の専門図書館としての機能

能をさらに充実させてリニューアル開館する予定です。詳細につきましては、当財団ホームページなどで改めてご案内をさせていただきます。

ご利用者皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

館長のつぶやき

ワシントンD.C.に出張する機会があり、宿泊したホテルのすぐ近くに「ナショナルジオグラフィック協会(National Geographic Society)」があった。我が旅の図書館では「ナショナルジオグラフィック」誌を定期購読し、見事な写真に圧倒される単行本も多数所蔵しているが、その「ナショジオ」の本家だ。

ミュージアムがあると分かったが入り口を間違え、「NG Library & Archives」にたどり着いた。「the Public by appointment」とあるドアが開いていたので、日本から来たのだが……と頼んでみたら職員の女性が親切に対応してくれた。

ごんまりしたパブリックスペースには同協会の出版物、中でも1888年創刊の同誌バックナンバーを全て手に取って読むことができる。また一角には世界各国へのガイドブックが並んでいる。

ガラス越しに見える広い書棚スペースはNGSスタッフ専用の

- ▶ ナショナルジオグラフィック協会建物概観
- ▶ ライブラリー内部の様子



研究資料室だった。1200人いるというスタッフによって、雑誌の編集はもちろん、映像番組の制作、探検プロジェクトの支援事業など同協会のミッションに沿ったさまざまな活動の企画がここから生まれ、ここに記録され、また新たな別のプロジェクトを支えていくのだ!

静かな図書館空間に時空を超えた熱気を感じた。(久保田)